

■「未知なるもの」に導かれて

■展示主旨

未知なるもの：それは空間に無尽蔵に充満しているエネルギー：

古くは龍脈（地脈のエネルギー）や気（天地のエネルギー）の流れで表現され、良質のエネルギーを導き出すとともに、そのエネルギーを利用することで、悪質な場所を良質に改善させていたようです。

現代科学の分野では微粒子の運動として捉え、新たな研究がなされています。

超物理学の世界では物質と反物質の両方に介在する極微の微粒子を意識として捉えようとしている。極微の微粒子は有機的構造をもち、人間の心とも相互作用をすると考えているのです。微粒子の情報系と意識は限りなく近く、物質であり生命といえる宇宙は、微粒子の運動の相関関係で成り立っているようです。

その意味から、宇宙の意識、地球の意識、人間の意識、物質の意識に共通するエネルギーの根源として、宇宙の中に存在するすべての物質に運動エネルギーを与えている強大なエネルギー磁場が予感されます。磁場＝意識場とも考えられるかもしれません。この展示会は地脈のエネルギーを活用し、展示の「場」を磁場のエネルギーを集積する「装置」・創作のエネルギーや意識のエネルギーが凝縮された「もの」達を磁場のエネルギーの図面に沿って配列させることで、力の場（パワースポット）を浮き彫りにする試みとなります。

パワースポットを創出することで、未知なるものの正体を探ります。

■美学校：スピリチュアリズム芸術表現

かつて、美学校に松澤宥の「最終美術思考工房」が存在した。既存の価値を変換し、新たな価値を創出するために思考する場であった。それを継承し、思考する教場がスピリチュアリズム芸術表現です。今回の展示は2009年度に在籍した生徒によるカリキュラムの紹介と「未知なるもの」のインスタレーションと現在の活動などを織り交ぜた構成となっています。

○2009年度受講カリキュラム

宇宙論、量子力学、曼荼羅、オートポイエーシス、アナキズム、アナグラム
超科学、超古代文明、純正完全倍音、ゲーテ形態論、ポールシフト、気学
風水、ダウジング、UFO学、体術、その他